

第七章 歌と俳句について

(二) 歌づくりによる社会貢献

私は、紀の川市に赴任して以来何曲か歌をつくり、発表してきました。『紀の川のほとりで』など、紀の川市ピンクリボンキャンペーンのテーマソングに採用されCD化にいたったものもあります。これも、この歌を歌っていた上名手かみなて小学校の児童たちをはじめ関係者の皆様のおかげと、大変感謝しています。

私の歌づくりは、高校時代からはまりました。ギターやキーボードを奏でながら、歌づくりをするスタイルです。大学に進学後もバンドを組み、オリジナル曲をつくってきました。

一時は本格的に音楽を勉強してみたいと考え、大学に在籍しながら音楽の専門学校に通い、音楽理論などを勉強したこともあります。しかし、一方で専

門的な音楽理論についての疑問も感じるようになりました。Cメジャーやドミナント、スケール等々いくら音楽理論を駆使した歌づくりをしても、真に人の心を打つ歌はできないのではないかということです。

人の心を打つ歌づくりには、何が必要なのでしょう。うか。

色々と考えていく中で、私は、ある種の人生経験を積み重ねていくことが大切なのではないかと考えるようになりました。

普通に就職をし、結婚をして子どもができて……当たり前のように見える人生の中でも、必ず喜怒哀楽があるものです。

歌というのは、そういった人生のページーページを写しとっていくようなものであるべきだし、そういった歌を作っていきたいと考えました。

私のつくる歌は、当初、恋愛をテーマにしたものが多かったのですが、農林水産省に就職してから日本全国の様々な地域に赴任する中で、「地域」をテーマにした歌づくりをするようになっていきました。

「地域」をテーマにした歌づくりの原点は、二〇代のころ、平成二年から二年間、市町村交流で赴任した鹿児島県末吉町での経験です。

地域に少しでもとけこもうと考え、町役場勤務のかたわら青年団にはいり、ふとしたきっかけで鹿児島県青年大会の「のど自慢の部」に出場することになりました。

県大会で自分が仕事とする土地改良事業をテーマにしたオリジナル曲『大地への刻印〜土地改良の歌〜』を歌った結果は、何と優勝。鹿児島に来て一年目にして、鹿児島県の代表として東京の神宮の森で行われた全国大会に出場することができました。そ

の年十一月に行われた全国大会でも、優秀賞という結果をいただくことができました。

が、本当に嬉しかったのは、鹿児島県の青年団の仲間達が自分のことのように応援し喜んでくれたことです。

農村で活躍する彼らとの連帯感が心地よく、彼らを勇気づけるような歌づくりをすることが、自分の使命ではないかと感じた次第です。

青年団活動にも力がいり、全国大会の直後、地域の青年団の団長まで引き受けるようになりました。その後、青年団の仲間からの誘いなどで県内各地に呼ばれるようになり、農村を元気づけるコンサートスタイルを確立しました。

そういつた中、鹿屋市の作家・郷原茂樹さんから声をかけていただき、地元の女性と村おこしバンド「みなみ風」を結成することになりました。「農村

を勇気づける」というコンセプトでつくった「みなみ風」は、鹿児島県内で大きな話題となり、テレビや新聞など県内マスコミ等にも何度もとりあげられました。

CDをはじめ制作したのは、鹿児島を離れて三年ほどたつてからです。鹿児島でつくった歌を中心に『からいも畑に陽が落ちて』というタイトルのCDを千枚制作しました。クオリティの高いものを志向した結果、二〇〇万円ほどの製作費がかかってしまいました。後悔はしていません。このCDを制作したことによって、自分の人生がより豊かなものになったと確信がもてるからです。



むらおこしバンド「みなみ風」

鹿児島県の代表として全国青年大会「のど自慢の部」に出場したことを契機に、地元の女性たちと農村を元気づけるコンサートをはじめました。

平成一四年から二年間勤務した農林水産省農村振興局在籍時には、棚田や自然再生を担当し、棚田のすばらしさを歌に織り込んだ『棚田にて』や環境に配慮した農法ふゆみずたんぼの取組をテーマにした『ふゆみずたんぼの歌』のCDを作成しました。

『ふゆみずたんぼの歌』は、宮城県を中心に自然保護活動を展開している「日本雁を保護する会」の会長である呉地正行さんの依頼によって作成しました。宮城の地元の小学生に「ふゆみずたんぼ合唱団」を結成し

てもらい、この歌を歌ってもらったのも良い経験となりました。

また、関東地区の末吉町



CD『からいも畑に陽が落ちて』

CD『からいも畑に陽が落ちて』を制作したことによって、自分の人生がより豊かなものになったと確信しています。

出身者の会・関東地区末吉会の方に頼まれて、『ふるさと末吉／君達の船』というCDもつくりました。このように、紀の川市に赴任するまでに作成したCDは、次の四枚となります。

○『からいも畑に陽が落ちて』（平成七年）

○『棚田にて／妹よ』（平成一六年）

○『ふるさと末吉／君達の船』（平成一七年）

○『ふゆみずたんぼの歌』（平成一八年）

こういった「地域」をテーマにした歌づくりは、農村振興という自分の仕事とシンクロ（同調）する部分があります。私にとつての歌づくりとは？と問われたときは、「自分にとつてのライフワークであり、社会貢献活動です」と答えることにしています。

紀の川市に赴任してから、「紀の川市をテーマにした歌をつくって残したい」という想いを強く

持っていました。

結局、紀の川市でも五曲ほど歌を残すことができました。それぞれ、紀の川市の地域づくりに関わってきた自分だからこぞつくることのできた歌だと自負しています。

歌づくりは基本的にボランティアで行っていますが、歌づくりを通じた社会貢献が紀の川市でもできたことは、自分の人生にとって大きなプラスになったと考えています。

この本を企画するときから、これら紀の川市の歌を紹介するCD付きの本としたいと考えていました。私が紀の川市でつくった歌を以下で紹介していきます。また、紀の川市赴任直前にレコーディングを行った『帰ってきてくれたんか』についてもあわせてご紹介させていただきます。

この章は、付属のCDとあわせてお楽しみください。

紀の川のほとりで

作詞作曲／田中卓二

1
背^せの山が近く見える
ヒヨドリが楽しげに鳴く
葉の花が咲き乱れる
この場所に君だけいない
川は今日も流れている
広く深くゆるやかに
僕は何ができたろうか
君のために

2
妹^{いも}山は寂しそうね
目を細めつぶやいた君
思い出を手繰りながら
青洲の里に佇む
川は今日も流れてゆく
遠く強くただ激しく
僕は何ができるだろうか
君のために

3
もしも君のところへ行ける
橋を架けることができれば
僕は何を君に語ろう
紀の川のほとりで

紀の川は今日も流れ
幾つもの川を集めて
君はまだここに居る
僕たちの心の中に……

(二) 紀の川のほとりで

「背^せの山^{やま}に直^{ただ}に向かえる妹^{いも}の山^{やま}」
事^{こと}許^{ゆる}せやも打^{うち}橋^{はし}渡^わす」

万葉集にあるこの歌をご存じですか？

この詠^よみ人知らずの万葉歌は、紀の川の兩岸に並ぶ背^せの山^{やま}と妹^{いも}山^{やま}を男女に見立てて歌われました。訪ねてくる男性のために打橋（玄関前の橋）を渡して、

女性が男性のプロポーズを受け入れたのだろうという大意です。

背の山・妹山周辺の紀の川のほとりを歩くと、はるか万葉の時代からの歴史を感じることができます。江戸時代に活躍した華岡青洲も、きつと、こういった紀の川の風景の中で過ごしたのではないかと思えます。自らの家族を犠牲にしながらも、世界ではじめて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功するという偉業をなしたげた青洲は、紀の川のほとりで何を

考えていたのでしょうか。

華岡青洲の顕彰施設・青洲の里からは、背の山を間近に見ることが出来ます。菜の花が咲き乱れる初春のある日、青洲の里で、あるマスコミ関係の方からご自身の体験談をお聞きする機会がありました。乳がんで大切な肉親の方をなくされた悲しい思い出です。

こういったエピソードをもとに、乳がん撲滅への願いと、悲しみを乗り越え「強く生きていこう」として「私たちに何ができるか」というメッセージを、悠久の時を刻み続ける紀の川のほとりを舞台にして、歌に託することにしました。

この歌は、乳がん撲滅を目指す紀の川市ピンクリボンキャンペーンのテーマソングとされています。乳がんは、早期であれば九〇%以上の確率で治癒するといわれています。乳がん撲滅に向け、乳がん検診を一人でも多くの女性が受けていただくことを

願ってやみません。

◆紀の川市ピンクリボンキャンペーン

紀の川市ピンクリボンキャンペーンがスタートしたのは、平成二〇年のことです。華岡青洲の生誕地である紀の川市から、乳がん撲滅に向けた「早期発見と早期治療・検診受診率向上」を目指して、啓発普及活動を進めていこうというものです。

ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝えるシンボルマークとして知られていますが、紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部では、「青洲くん」と「曼陀羅華」の2種類のバッジで、乳がん撲滅への願いを紀の川市から発信していきます。



ピンクリボンバッジ

「青洲くん」と「曼陀羅華」の2種類のバッジで、乳がん撲滅への願いを紀の川市から発信していきます。

陀羅華^{だらか}」の二種類のピンクリボンバッジを作成して、

乳がん撲滅の願いを発信する啓発グッズとしています。

毎年、乳がん検診啓発のための講演会を開催するとともに、啓発グッズを活用して募金を集めるなどしています。

こういった募金によって、平成二二年秋、公立那賀病院に乳房デジタル超音波診断装置、通称エコーといわれる乳がん検診機器が贈呈されました。

ピンクリボンキャンペーンの根本は、命の問題だと思っています。このキャンペーンは、命の大切さを考えてもらえるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

◆CD『紀の川のほとりで／華岡青洲とその生涯』

紀の川市ピンクリボンキャンペーンの啓発CD

『紀の川のほとりで／華岡青洲とその生涯』が、啓

発グッズの一つとして制作されることになったきっかけは偶然でした。

平成二二年二月、紀の川市内で乳がん検診の啓発のための講演会が開催されることになりました。講師は、ご自身も乳がんに罹患^{りかん}された経験をもつタレント・山田邦子さんです。この講演会のオープニングに、『紀の川のほとりで』を歌ってほしいという依頼が事務局から私にありました。

私はその日、東京出張がはいつていましたので、どうすればいいか市役所の中で相談したところ、上手^なて小学校の児童に歌ってもらうのがいいのではないかとということになりました。上手小学校は、華岡青洲の地元の小学校です。講演会まで時間もなかったので無理を承知で依頼したのですが、快く引き受けていただくことができました。

講演会当日、上手小学校児童全員で『紀の川のほとりで』を合唱してくれました。歌にあわせて次

のようなメッセージを児童から発してくれました。

みなさんにできることがあります。

お姉さん、お母さん、おばあちゃんは、

みんな乳がん検診を受けてください。

お兄さん、お父さん、おじいちゃんは、

お友達やご家族の女性の方に

乳がんの検診を受けるよう勧めてください。

どうかお願いします。

「天使の歌声」ともいえる純粋なそのメッセージは、会場の聴衆に深く共感を呼びました。

その後、ピンクリボンキャンペーン推進本部で、この歌のCD化の企画が提案され、(財)青洲の里や音楽制作のASORA社の協力を得て、このCD企画が実現しました。

CDジャケットの写真は、写真家の堀田賢治さん



上名手小学校児童の「天使の歌声」

上名手小学校の皆さんが、この歌に『魂』を吹き込んでいただいたものと感謝しています。

から女性の力強さ・優しさを表現する素晴らしい写真を提供していただきました。モデルの女性と子ども達は、紀の川市内在住の方だそうです。



ピンクリボン CD

写真家・堀田賢治さんから、女性の力強さ・優しさを表現する素晴らしい写真を提供していただきました。
問い合わせ：0736-77-0829

CD化に当たっては、「青洲の語り部」として全国で講演活動を行っておられる池田章さんの『華岡青洲とその生涯』という講演も収録されることになりました。

平成二十二年九月、打田生涯学習センターのスタジオで行われた録音では、上名手小学校全児童が学年別に班分けをして、ヘッドフォンを装着し、心を込めて歌を歌ってくれました。夕方からの講演の収録では、池田さんの真摯な態度に、みな心を打たれま

した。

CDを注意深く聴いていただくと、川の音やウグイスの鳴き声が聴こえます。これらの音は、早朝、私が実際に紀の川のほとりで収録した音です。特に、歌の最後に収録されている水鳥の羽ばたきの音を聴いていただけると嬉しいです。

このCDによって、乳がん撲滅に向けた歌やメッセージが、紀の川市をはじめ全国に届くことを願っています。

◆池田章さんとその講演について

池田章さんは、大正一〇年、紀の川市西野山に生まれ、昭和二十二年、和歌山県庁に入庁、昭和五三年に県職員を勇退後も、旧那賀町教育長などを歴任され、青洲の顕彰施設・青洲の里の建設にも深くかわりました。

また、生涯の研究対象として華岡青洲の業績研究

に取り組み、青洲の苦難に満ちた生涯を伝える「青洲の語り部」として各地で講演活動に取り組みられています。

私も何度か講演をお聴きする機会があり、そのたびに涙ながらに話をされる池田さんの気迫に心を打たれました。

一度、きちんとした形で記録しなければならないと考え、紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部に働きかけたところ、池田さんの講演を録音してもらええることになりました。プロの音響技術者であるASORA社のスタッフが最新の技術で協力して



池田章さん

CDには、池田章さんの『華岡青洲とその生涯』という講演も収録されています。「青洲の語り部」として涙ながらに話をされる池田さんの気迫には、心打たれるものがあります。

くれました。

CDには、平成二十二年九月に紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部において行われた講演を収録しています。上名手小学校児童の「天使の歌声」とあわせて、池田章さんによる魂の叫びともいえる講演を、ぜひお聴きください。

このCDは、紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部の啓発グッズとして位置づけられています。購入ご希望の方は、推進本部の事務局（紀の川市保健福祉部健康推進課内 0736-77-0829）にご連絡ください。

紀の川ぶるぶる娘の歌～紀の川市食育推進の歌～

作詞作曲／田中卓二

1

おいおいでよ子ども達 ようこそ果物王国へ
バナナとパイナップル以外 何でもとれる紀の川市
じくぶる さくぶる ももぶる かきぶる きうぶる いちごっぶる
みんなかわいい6人姉妹 毎日くだもの食べましょう

※紀の川のぶるぶる娘 おいしくたのしくほがらかに
和歌山のみずみずしさをあなたにあげたいぶるぶる娘
ぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶる娘

2

おい楽しく食べようよ ようこそ食育王国へ
早寝早起き朝ごはん 笑顔のあふれる紀の川市
じくぶる さくぶる ももぶる かきぶる きうぶる いちごっぶる
みんな元気な6人姉妹 毎日やさいを食べましょう

※繰り返し

3

じくぶる さくぶる ももぶる かきぶる きうぶる いちごっぶる
少しお茶目な6人姉妹 みんなで楽しく食べましょう

※繰り返し

ぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶる娘
ぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶる娘

(2番と3番の間のかけあい)

やわらかくてぶによぶによの「いちじく」は、だ～れ？	じくぶる！
ちょっぴり苦くてさわやかな「はっさく」は、だ～れ？	さくぶる！
ん～いい香り！あまくてみずみずしい「もも」は、だ～れ？	ももぶる！
ジュワーとあまくてビタミンCたっぷりの「柿」は、だ～れ？	かきぶる！
あまずっぱくて緑あざやか「キウイフルーツ」は、だ～れ？	きうぶる！
ケーキの花形、おちおちかわいい「いちご」は、だ～れ？	いちごっぶる！
じゃあ、元気でかわいい6人姉妹は、だ～れ？	紀の川ぶるぶる娘！

(三)『紀の川ぶるぶる娘の歌』

『紀の川ぶるぶる娘の歌』は、紀の川市観光協会のフルーツキャラクター「紀の川ぶるぶる娘」のテーマソングとしてつくった歌です。紀の川市の果物のPRをするだけでなく、副題に『紀の川市食育推進の歌』とあるように、歌詞の中で、食育や地産地消をさりげなく盛り込み、分かりやすく食育の推進を訴える内容となっています。

「紀の川ぶるぶる娘」は、紀の川市の代表的な農産物を六点デザインしたものです。紀の川市観光協会が愛称を公募したところ、全国から三、四五七件の応募があり、観光協会役員の厳正な審査の結果、平成二〇年四月、福岡県の二〇代の女性の作品が選ばれました。

グループ名「紀の川ぶるぶる娘」のほか、それぞ



紀の川ぶるぶる娘

「紀の川ぶるぶる娘」の着ぐるみは、西宮市在住の演出哲夫さんにボランティアで製作していただきました。初代キャンペーンスタッフ「紀の川ぶるぶる娘」に選ばれた安藤小百合さんと黒田千佐寿さんとともに、紀の川市の観光PRのために頑張ってくれています。

れ「じくぶる」「やへぶる」「ももぶる」「かきぶる」「きつぶる」「いちじくぶる」という名前もあります。デザイン化したのは、平成一七年の生産高全国一位のいちじく、はつさく、二位の桃、三位の柿、四位のキウイフルーツのほか、県下一位の生産高となっているイチゴも対象としています。

選考理由は、紀の川市の果物のみずみずしさを表現していることと、名前の親しみやすさでした。今から考えても、大変いい愛称をつけていただいたと

感謝しています。

市内の保育士さん達にも意見を聞き、子ども達が楽しく歌いながら食育を学べるような歌をつくることを心がけました。

歌詞の中に、「毎日果物食べましょ」「毎日野菜を食べましょ」「みんなで楽しく食べましょ」などと紀の川市の食育の基本ともいべき内容を盛り込み、歌いながら食育に親しみが感じられるように工夫をこらしています。

この歌の二番と三番の間には、歌い手と子ども達との「かけあい」の部分があります。コンサートでこの歌を歌う際、子ども達と楽しくコミュニケーションをとるために入れることにしました。

桃であれば「ん〜いい香り！あまくてみずみずしい』『もも』は、だ〜れ？」と歌い手が問いかけると、

子ども達が「ももぷる！」とこたえる仕掛けです。ぷるぷる娘の果物の特徴を取り入れた六種類の「かけあい」の後、「じゃあ、元気で可愛い六人姉妹はだ〜れ？」と問いかけ、子ども達が「紀の川ぷるぷる娘！」と答えます。

この「かけあい」を入れたのは大成功で、子ども達がこの歌に親しみをもちもらう原動力になっていると思います。

市内の保育所では、この歌を、お遊戯会や体操に使っていただいています。

私自身、何回か市内の保育所に呼んでいただき、子ども達と



市内の保育所でのコンサート風景

保育所のコンサートでは、『紀の川ぷるぷる娘の歌』が大人気。ぷるぷる娘のお面をかぶった子ども達と「かけあい」を楽しみます。

一緒にこの歌を歌わせていただきました。

当然の事ながら、普段の仕事では保育所の子ども達と接する機会はほとんどありませんが、この歌をつくったおかげで「未来の紀の川市を担う子ども達と共通の思い出を持つ」という貴重な体験をさせていただけたと感謝しています。

◆CD『紀の川ぶるぶる娘の歌』

CD『紀の川ぶるぶる娘の歌』には、三つのバージョンの歌が収録されています。

一つ目が、西貴志保育所ひまわり組バージョンです。

毎年一月に、紀の川市貴志川町で産業まつりが開催されます。このまつりで子ども達に歌を歌ってもらいようお願いしたところ、貴志川町にある保育所のひとつである西貴志保育所の子ども達も歌ってくれることになり、CDのレコーディングもあわせ

てお願いすることになりました。

平成二十一年九月、子ども達に打田生涯学習センターのスタジオに来てもらって、二班に分けてレコーディングを行いました。子ども達には、事前にカラオケのCDを渡して練習してもらっていたのですが、驚くほどうまく歌ってくれました。

「かけあい」の部分は、WBS和歌山放送の宮上明子アナウンサーにお願いしました。平成二十一年六月「宮上明子のラジオカフェ」

に私が出演し、

一緒に『紀の川

ぶるぶる娘の

歌』を歌いまし

た。このご縁か

らレコーディン

グにお誘いした



宮上明子アナのレコーディング風景

「宮上明子のラジオカフェ」という番組に出演させていただいたのをきっかけに、宮上アナにもレコーディングに参加していただくことになりました。

ところ、快諾をいただいたものです。

宮上さんと子ども達との相性もぴったりで、とても楽しいレコーディングとなりました。

平成二十一年の産業まつりは、新型インフルエンザの流行により、中止となってしまう、結局、子ども達がおまつりで歌うことはありませんでした。大変残念なことですが、CDに子ども達の歌声を記録できたのはよかったです。

二つ目は、宮上さんと子ども達とが一緒に歌っているバージョンです。

実は、当初、宮上さんには「かけあい」部分のみをお願いしていたのですが、せっかくの機会だからということで、歌も録音させていただいたものです。宮上さんの歌声は優しく伸びやかなもので、子ども達の歌声とあわせてみると、本当にほのぼのとした仕上がりとなりました。

三つ目は、結^{ゆい}まあるさんと私が一緒に歌っているバージョンです。いわゆる「ユニゾン」というもので、結さんと私が同じ音程で歌っています。

結さんは、東京のアーツビジョン所属のプロの声優さんです。『フツタンのまだある。物語』のフツタンの声などを担当されていますので、皆さんも一度はその声を聴かれたことがあるかもしれません。

結さんとは、東京のテレビ局関係者などが主催する「アミエルプロジェクト」という市民による文化発信サークルを通じて知り合い、平成一八年三月、東京・中野区にある「なかの芸能小劇場」で一緒にコンサートを行ったこともあります。今回のレコーディングには「友情参加」という形で協力していただきました。

結さんは、声優として活躍するだけでなく、合唱団の一員としても活動されていたそうです。子ども達の声で、しかも、歌も完璧に歌える大変頼りがいの

あるパートナーでした。「かけあい」の部分も、彼女の発案で挿入することになったものです。

CDを聴いた方から、

「どんなお子さんがお歌いになっているのですか」と問いかけられたことが何度となくあったほど、子どもらしく自然にのびのび歌っていたと思います。

また、レコーディングを通じて、私自身、結さんに教えていただくことが多かった。結さんは私に「この歌はうまくきれいに歌うより、明るく楽しく歌わなきゃ」と教えてくれました。

私は、歌の収録に当たって、音程やリズムなど変に気にしてしまうことが多いのですが、この歌ではあまりそういったことを気にしないようにして、楽しく歌うことを心がけました。すると、本当に楽しい歌の仕上がりにになりました。

CD『紀の川ぶるぶる娘の歌』は産業まつり用につくった非売品です。が、「食育のまち紀の川市」ホームページ (<http://seishu.sakura.ne.jp/syokumusic/>) で三曲とも試聴・ダウンロードができますので、ぜひ、お聴きください。

『紀の川ぶるぶる娘の歌』は、西貴志保育所の子ども達、宮上さん、結さんほか関係者の皆さんのおかげで本当に素晴らしいものになりました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。



CD 『紀の川ぶるぶる娘の歌』

『紀の川ぶるぶる娘の歌』は、市内の保育士さん達の意見も聞き、子ども達が楽しく歌いながら食育を学べるような歌にしました。

どうなん
童男さんの歌

作詞作曲／田中卓二

1

昔々のその昔 童^{わらべ}の姿でやってきた
童男さんは今日もここにいる 粉河のまちの駅前に
とんまかとんとんまかとん だんじりの 太鼓の音が響きだす
※1 ど ど 童男さん とん とん とんまか
こ こ 粉河にやってきた
※2 ど ど 童男さん とん とん とんまか
ほ ほ 僕らの童男さん

2

縁起絵巻を読みながら とんまか通りを通り抜け
童男さんはここでも笑ってる 大門^{だいもん}橋のほんはたで
カラカラコン カラカラコン 鉦^{かね}が鳴る 粉河のまちのお祭りだ
※1 繰り返し
※3 ど ど 童男さん とん とん とんまか
こ こ 粉河の童男さん
※4 トンマカトンマカマトマカトンマカ トンマカトンマカマトマカトンマカ
マトマカトカマカマトマカトンマカ マトマカトンマカマトマカマ

3

とんまかとん とんまかとん 振り向けば
竜門山に 陽^はが映えて
※1・※2 繰り返し ※1・※3 繰り返し
童男さんは 本当はここにいる 粉河寺^{どうなんどう}の童男堂
一年一度会える日は 十二月^{どうなんえ}の童男会
※4 繰り返し

(童男さんの歌 語り)

昔々、孔子^{くし}古^こという獵師^{りくし}のところに、童^{わらべ}の行者がやってきて、お堂に入って七日で観音様をつくって、いてへんようになったんやと。ほんまは、あの人は観音様やったんや。ほいで、みんな童の行者を「童男さん」と呼んで、そらありがたがったらしいで。

童男さんは、河内の長者どんの娘の病を直して、紀州の粉河にいらってゆうて、いんでもうたんやと。長者どんが娘を連れて粉河にきたところ、お堂の中に童男さんにやった小刀と赤い布をもった観音様がいてたんやと。

やっぱり童男さんは観音様やったんやいうて、ほんで、みんな、大喜びしたんや。

(四) 童男さんの歌

粉河の童男さんをご存じですか？

紀の川市が誇る、歴史深い粉河寺の草創に深く関わった童の姿をした行者です。紀の川市では昔から「童男さん」と親しみをこめて呼ばれています。

平成二〇年、粉河の商店街では、童男さんによって商店街の活性化を図ることになりました。

童男さんの石像を粉河駅前と粉河寺の大門橋の端に二基設置するとともに、粉河駅から粉河寺まで約



粉河駅前の童男さん

粉河駅前に立つ「童男さん」の石像。粉河寺草創にかかわった童の行者は、「童男さん」と親しみをこめて呼ばれています。

一キロメートルの「粉河とんまか通り」に三〇基のモニュメントを設置して、粉河寺縁起絵巻などの童男さんの物語を読みながら歩いてもらうことにしたのです。

◆CD『童男さんの歌／粉河祭だんじり太鼓』について

『童男さんの歌』は、粉河の商店街の人たちから、このモニュメント設置を記念して「童男さんをテーマにした歌をつくってほしい」と依頼されつくった



CD『童男さんの歌／粉河祭だんじり太鼓』

「ど、ど、どうなんさん」というサビの部分は、子ども達に楽しんで口ずさんでもらうため、親しみやすいフレーズづくりを心がけました。

歌です。

歌のイント
口で聴こえて
くる太鼓の音
は、粉河まつ
りのだんじり
で競演される
「粉河とんま
か太鼓」の音
です。

粉河車楽^{しゃらく}ラブの河西弘文^{ひろふみ}さんが実際に太鼓を叩いてくれた音を収録しています。

とんまか太鼓の中央打ちの音は「とん」、右へり打ちの音は「ま」、左へり打ちの音は「か」と聴こえます。続けて聴くと「とんまか」と聴こえるため、「とんまか太鼓」といわれるわけです。

「ど ど どうなんさん」というサビの部分は、



粉河まつり

トンマカトンマカ... 粉河まつり(宵祭)では、太鼓や鉦の音とともにだんじりが運行します。本祭の御渡式とともに、紀の川市の夏の風物詩となっています。

歌の依頼を受けたときに最初に思い浮かんだフレーズです。子ども達に楽しんで□ずさんでもらうには、こういった親しみやすいフレーズがいいのではと考えました。宮沢賢治『風の又三郎』の一節「どつど どつどつど どつどつどつど 青いくるみも吹きとばせ…」のリズム感が好きだったので、少々参考にさせていただきました。

粉河の駅前前の童男^{どうなんどう}さんからはじまって、とんまか通りのモニユメン

ト、大門橋の端にある童男^{どうなんどう}さんを紹介するだけでなく、粉河寺の童男^{どうなんどう}堂にいる童男^{どうなんどう}さんについて歌詞の中で紹介しています。

この童男^{どうなんどう}堂の童



童男堂

毎年12月18日に童男^{どうなんどう}堂で行われる童男^{どうなんどう}会では、秘仏の童男行者を拝見できます。

男さんは、一年に一回、一月一日に開催される「童男会」という行事のときにしか拝見することができません。CDを聴いた人には、こういう年中行事にも関心をもってもらえればと嬉しいのです。

二番と三番の間に入れている「語り」の部分は、粉河で絵本の読み聞かせなどで活躍されている児玉君代さんをお願いしました。児玉さんの紀州弁の語りは、あたたかく素晴らしい仕上がりとなっています。

ひとつの歌の中に色々な要素を盛り込んでいて、少し欲張りな感じもありますが、要は、子ども達に楽しく歌ってもらえればいいのかなと思います。

CDには、『童男さんの歌』のほか、『粉河祭だんじり太鼓』の鉦ありバージョンと鉦なしバージョンが収録されています。

河西弘文さんが一人で太鼓と鉦を演奏したものを、

ASORA社がプロの技術で録音し編集しています。CDジャケットに「とんまか譜面」も掲載していますので、これから太鼓を練習しようとする方には参考になると思います。

CDジャケットの表紙は、粉河駅前の童男さんの像を囲んだ地元の女の子にモデルになってもらいました。ほのぼのとした仕上がりで親しみやすいものとなっています。

CD『童男さんの歌／粉河祭だんじり太鼓』は、粉河とろう祭実行委員会が制作し、紀の川市商工会総会の記念品として配布されました。問い合わせは、紀の川市商工会（0736・73・5079）にお願いします。

◆童男さんの物語

童男さんの物語について紹介しておきます。

昔々、紀州の粉河の地に、孔子古という獵師が住

んでいていました。ある日、鹿を狙っていると地面から光を発していたので、その地にお堂を建てて仏様を安置したいと考えました。

お堂は建てたものの、仏様がいなかったたので困っていたところ、童の姿をした行者がやってきて、「私が仏様をつくって進ぜましょう。ただし、七日の間、けつしてのぞいてはいけません」と言つて、お堂の中に入りました。

七日が過ぎて、孔子古がお堂の中に入ったところ、まばゆいばかりの光につつまれた観音様が立っていました。「あの童の行者は、観音様が姿をかえてやってきたに違いない」と孔子古は大喜びしました。それ以来、粉河の人たちは、童の行者を「童男さん」と呼んで、ありがたがったそうです。

童男さんは、人々を救うためにどこにでも現れました。河内の国の長者どんのところでは、娘が重い病にかかり苦しんでいましたが、ここにも童男さん

が姿をあらわしました。童男さんが娘の枕もとで七日間祈り続けたところ、不思議なことに娘の病はすっかり治つてしまいました。

驚いた長者どんが、大喜びでお礼に宝物をいっばいさしました。童男さんは受け取りません。娘の小刀と赤い布だけを受け取り、「私は紀伊の国、粉河にいます」とだけ言つて姿を消してしまいました。

次の年、長者どんは娘を連れて、紀伊の国に旅立ちました。山また山をこえ、山のふもとに粉を流したような白い川を見つけました。

「ここが粉河に違いない」と川をさかのぼっていくと、孔子古が建てたお堂にたどりつきました。お堂の中には観音様がいて、何と、童男さんにあげた小刀と赤い布が観音様の手に握られているではありませんか。

「ああ、やっぱり童男さんは観音様やったんや」

と長者一家は、観音様に手をあわせたそうです。

その後も、長者一家は粉河に残り孔子古とともに
お堂を守り続けたそうです。

◆『門前町りばいばる』

（紀の川市商店街活性化基本計画）

童男さんのモニュメントは、平成二〇年度、魅力ある商店街助成事業の採択を受け、約二千百万円の事業費をかけて制作されました。国費一〇〇%の補助事業なので全国でこの事業を希望する団体が多く競争率が高い事業です。平成二〇年度は全国で二三地区しか採択がありませんでした。この事業採択が決まったとき、「ほとんど奇跡的なことだ」と総務省にいる友人にびっくりされたことを覚えています。

この事業の申請のきっかけは、粉河の商店街の方々の「さびれていくまちをなんとかしたい」とい

う思いでした。

しかし、極めて競争率の高い事業ですから、地元の意欲だけでは採択に至りません。市役所としても、申請内容に磨きをかけることが必要です。

この対応として商工観光課の職員の力を結集したのが『門前町りばいばる』という商店街活性化の基本計画です。この計画の出来不出来が採択を決める要となります。

この計画の副題をご紹介します。



門前町りばいばる

商店街活性化の基本計画『門前町りばいばる』。職員手づくりながら、大変充実したこの計画があったからこそ、モニュメント事業が採択されたと考えています。

伝統ある歴史と現在の生活という二つの顔をもつ、粉河とんまか通り商店街。

商店街の活気がさびれていくことに歯止めをかけようと、すぐ近くにあるスーパー観光資源「粉河寺」との共存に、多くの人たちが知恵を絞る。特効薬はない。

築き上げたこのまちの文化は、室町時代から脈々と受け継がれてきたもの。時間をかけて、ゆつくりと、自分たちのこのまちを「再び愛そう」と立ち上がる。

作成者のセンスを感じさせる文章と思いませんか？

この基本計画の策定に当たって、粉河とんまか通りの商店街の経営者の方々や、粉河寺への観光客などへもアンケートを実施して、現状分析をしつかり

と行っています。また、商工会会長や粉河寺管長、和歌山大学教授など、粉河商店街の活性化についてのキーマンへのインタビューを計画の中に織り込み、大変充実した内容となっています。

この職員手づくりながら大変充実した基本計画があったからこそ、難関だった助成事業の採択がなったものと考えています。

事業の採択後、商工会の呼びかけで粉河の商店街で実行委員会が結成され、「商店街の個性をどう伝えていくか」ということが改めて議論されました。その結果、「童男さん」という粉河寺の草創の主人公を核として、粉河とんまか通りにモニUMENTや童男さんの石像をたてることになったわけです。

この取組は、市民と市役所職員がともに力をあわせて町づくりを進める「協働」のモデルともなるべき事例ではないかと考えています。

なお、『門前町りばいばる』は、付属CDのPDFをご覧ください（CD資料編⑥）。

◆粉河とうろう祭について

粉河とんまか通りにモニユメントが完成したことを契機にはじめられたお祭です。粉河とんまか通りに数百本のとうろうを並べるとともに、コンサート等も行います。

平成二十一年からはじめられ、毎年九月の恒例行事となりつつあります。実は、商店街の三〇基のモニユメントは、とうろうとしても活用できるようになっています。まつり当日は、とんまか通りが幻想的な雰囲気につつまれます。

平成二十二年のとうろう祭では、「紀州わらべ歌粉河教室」の子ども達と一緒にコンサートに呼んでいただき、『童男さんの歌』を歌わせていただきました。

粉河のまちづくりと連動して、『童男さんの歌』は、楽しい歌に仕上がりました。この歌を支援していただいた紀の川市商工会や粉河商店街はじめ、関係者の皆さんに改めてお礼申し上げます。

あんたの^{しま}済州島へ～心から好きやから～

作詞作曲／田中卓二

1

あんたに会っていつしか三年が過ぎて
今日の日を迎えた
波の音の向こう側のふるさとのまちを
今離れてゆく
見送る父さんの大粒の涙
とめどなくあふれてくる
うちはほんまは不安やった
ふるさとを離れるのは^{しま}
そやけどあんたの^{しま}済州島へゆく
心から好きやから

2

なんでこんな人のことを好きになったんやろか
よく思うけれど
青い海のその向こうの^{チェジュ}済州の港に
あんた待ってるから
見送る母さんの白く細い手
いつまでも手を振った
うちはほんまは不安やった
ふるさとを離れるのは^{しま}
そやけどあんたの^{しま}済州島へゆく
心から好きやから

3

あんたに出会えて
うちはほんまに
幸せやと思っている
うちはほんまは不安やった
ふるさとを離れるのは^{しま}
そやけどあんたの^{しま}済州島へゆく
心から好きやから
^{ダンシジョンルノム}당신을너무 ^{サラシハギエ}사랑하기에

(五) あんたの^{しま}済州島へ

^{チェジュ}済州島は、韓国南部にある人口約五五万人の島です。「韓国のハワイ」ともいわれる風光明媚な国際的な観光地として知られ、^{ソサンイルチュルボン}城山日出峰や^{ハルラ}漢拏山が世

界遺産として登録されたことでも有名です。和歌山との関係も深く、北部の^{チェジュ}済州市が和歌山市と、南部の^{ソギボ}西帰浦市が紀の川市と姉妹都市提携をしています。

紀の川市と西帰浦市の姉妹都市提携は、那賀郡

と南済州郡が
昭和四九年度
から行つてき
た「みかん交
流」の流れを
くんでいます。

那賀郡から南
済州郡にみか

んの苗木が贈られ相互訪問も行われてきました。

平成一七年一月に那賀郡五町が合併して紀の川
市が誕生し、平成一八年七月に南済州郡と西帰浦市
が合併して新しい西帰浦市が誕生しました。これを
契機に、平成一九年二月、今まで那賀郡と南済州郡
が築いてきた友好関係を保ちながら更に交流を深め
発展させていくため、紀の川市と西帰浦市が姉妹都
市を締結したものです。

私も、平成二〇年五月、中村愼司市長と一緒に西



城山日出峰（西帰浦市）

紀の川市と済州島の西帰浦市は、平成 19
年 2 月、姉妹都市を締結しました。西帰浦
市には、世界遺産登録された城山日出峰ソンサンイルチユルボンが
あります。

帰浦市を訪問させていただぎました。道路など基盤
整備も進んでおり、国際観光都市の名に恥じない清
潔な街並みに感激したのを覚えています。

西帰浦市庁舎のデスクに紙の書類がほとんどない
ことも驚きでした。聞けば、韓国政府の方針で決裁
等の手続きはすべてコンピュータで行うことになり、
そのため、紙は基本的に使わなくなったそうです。

また、日本の県に該当する済州特別自治道には、
外交と防衛以外は思い切って自治権を与えるなど地
方分権についても、先進的な取組をしています。

日本から済州島にみかんを贈った「みかん交流」
から三〇年ほどを経て、西帰浦市のまちづくりから
紀の川市が学ぶべきことも多いのではと率直に感じ
ました。

紀の川市と西帰浦市は、姉妹都市の締結以来、相
互の職員の派遣交流や中学生の交流事業などを進め
ていて、両市の交流は、深まりをみせています。

『あなたの済州島へ』は、紀の川市と西帰浦市の交流を記念してつくった歌です。ふるさとを離れて済州島に嫁ぐ女性の物語を創作し、その想いを歌にしました。

生まれ育ったふるさとを離れるのは、誰しも不安で切ないものです。けれども、それを乗り越えてゆけるのは、真摯な「愛」の力ではないでしょうか。

この歌によって、紀の川市と西帰浦市との友好交流に貢献できれば幸いです。

◆CD『あなたの済州島へ』

CD『あなたの済州島へ』は、この歌と紀の川市内在住の歌手・宮本静さんとの出会いからはじまりました。「仲人」をしていただいたのは、ミュージックマート・エンタテインメントの岩橋和廣さんです。

岩橋さん

は、和歌山市内で岩喜演歌商店を営むかたわらインター

ネット放送局も主催されている方です。私が岩橋さんの番組に出演したのがきっかけで親交を深めました。

岩橋さんは、宮本さんが歌手としてオリジナル曲を探しているのを知り、私の歌を歌ってみればと勧めてくれたそうです。

CDを企画する中で、『あなたの済州島へ』のハングルバージョンも作成することになり、韓国語訳を西帰浦市から派遣交流で来ていた姜昌龍さん（カンチャロン）さんにお願いしました。



宮本静さんのCD 『あなたの済州島へ』

『大阪を離れて』から15年の時を経て、宮本さんがこの歌に「魂」を吹き込んでくださったものと感謝しています。
問い合わせ：073-457-1011

・インタビュー・



ミュージックマート・エンタテインメント（有）
会長兼社長 岩橋 和廣さん

—CD『あなたの濟州島へ』について—

原曲の『大阪を離れて』は、フォーク調の曲ですが、演歌調にアレンジし直して演歌歌手の宮本静さんに歌ってもらうと面白いコラボレーションになると思いました。

また、行き先を奄美大島から濟州島に変更することで、舞台設定が劇的になり、より共感を得られやすくなりました。従来から、濟州島と和歌山の交流が脈々と続いていることも、相乗効果をもたらしていると思います。

『あなたの濟州島へ』は、宮本さんのナチュラルな声質と歌唱力で力強さが加わり、フォークと演歌をミックスしたような癒し系の歌に仕上がっています。「すべての女性の応援歌」との評価もいただきました。

美空ひばりの『川の流れるように』のプロデューサー境弘邦さんから、「良い曲ですね。ヒットを願っています」とのコメントをいただきました。

「すべての女性の応援歌」との評価をいただきました。

宮本さんは、姜さんから直接発音指導を受けてレコーディングにのぞみました。後に宮本さんのハングルバーションを聴いた西帰浦市の人が、きれいな発音にびっくりしたそうです。

また、宮本さんの歌っている動画のURLを姜さんにEメールで送ったところ、「大変感動しました」という返信をいただきました。西帰浦市役所でも、その動画を回覧して見てもらったそうです。

CDには『紀の川のほとりで』もカップリングで入れることにしました。子ども達が歌うバージョンとは一味違う叙情あふれる宮本さんの『紀の川のほとりで』を聴くことができます。

宮本さんは、NHKBBS勝ち歌謡選手権で優勝するなど多数の歌謡賞を受賞されてきた実力派です。歌手になるのが夢だったのですが、結婚を機に夢をいったん封印していました。しかし、子育てが一段落し、『あなたの濟州島へ』との出会いによって、CDデビューすることができました。

また、宮本さんは、近い将来、濟州島でコンサートをするのが夢ということです。その夢は、きつとかなうのではないのでしょうか。

CD『あなたの濟州島へ』についての問い合わせは、ミュージックマート・エンタテインメント（073・457・1011）に願います。

なお、紀の川市の宣伝にもなることから、CD『あなたの濟州島へ』について、私は印税等をいただいでいませんで念のため。

この歌の原曲は、平成七年につくった『大阪を離れて』という歌です。大阪出身の女性を奥さんに迎える奄美大島出身の友人への餞としてつくったものです。一五年の時を経て、舞台を奄美から濟州島にかえて、宮本さんに「魂」を吹き込んでいただき、本当にありがたいことを考えています。

添付CDには、原曲の『大阪を離れて』を入れさせていただいています。CD『あなたの濟州島へ』とあわせてお楽しみいただければ幸いです。

よさこいハイランド！
～風を感じて～

作詞作曲／田中卓二

※よさこいハイランド
踊ろよハイランド！
老いも若きも輪になって
みんなで踊ろう ハイランド！※

1

風を感じて 踊り続ける
ここは 鎌垣 五本松
空の青さと森のみどりと
はるか見えるは 紀の国の山
今日は あざやか 花舞台なら
思い思いの 衣装で 踊りたい
※ 繰り返し

2

鳴子両手に 踊り続ける
隣は泉州 五本松
澄んだ空気と果てしない夢
はるか見えるは 関空の島
今日は あでやか 夢舞台なら
思い思いの 心で踊りたい

※ 繰り返し

ミカンとりさんトンボかセミかヨ
朝の早よから木に止まるヨ

3

※ 繰り返し
老いも若きも集う場所
ここは 粉河のハイランド！

(六) よさこいハイランド！

ハイランドパーク粉河は、紀の川市と大阪府貝塚市の境、和泉葛城山系の山中にある公園です。展望台やキャンプ場など、子どもから大人まで、森の中で楽しく遊べるところになっています。

このハイランドパーク粉河の管理は、かがき鎌垣財産区が行っています。財産区は、山林などを管理する特

別地方公共団
体で、紀の川
市内には鎌垣
財産区をはじ
め一四の財産
区があります。
鎌垣財産区は、
和泉葛城山系



ハイランドパーク粉河

ハイランドパーク粉河は、大阪と紀の川市の境にある森林公園。展望台やキャンプ場など、子どもから大人まで楽しく遊べるところです。

問い合わせ：0736-73-7948

の旧粉河町域の干
ヘクタールの山林
を管理する財産区
です。昔、このあ
たりが鎌垣荘とい
う荘園だったこと
から、このように
名づけられたそう
です。



よさこい集團の演舞

ハイランドパーク粉河の秋のイベントで踊る
よさこい集團のために『よさこいハイランド!』
を制作しました。

ハイランドパーク粉河では、毎年秋にイベントを
開催しています。平成二年からこのおまつりの
「華」として、よさこい集團を招待し、よさこい踊
りの競演を行っています。「よさこいハイランド！
〜風を感じて〜」は、鎌垣財産区の堀内宏員ひろみ議長か
ら依頼され、この祭の「総踊り曲」としてつくった
ものです。

ハイランドパーク粉河がある地域は、「五本松峠」

といわれています。泉州から紀州に行き来をする際
の交通の要所として有名で、かつて五本の松が植
わっていたことからこの名称がついたそうです。

明治時代、歌人・若山牧水もこの地で次のような
歌を詠んでいます。

秋雨の 葛城かつらぎ越えて白雲の

ただよふものと紀の国を見る

旅人よ地に臥せ空ゆあふれては

秋山河にいま流れくる

この歌は、明治四〇年（一九〇七年）九月、早稲
田大学在学中の牧水が、粉河にいる友人の藤田進一
郎（紀水）を訪ねたときにつくった歌とされています。
時に牧水は二三歳。この歌は翌年出版された牧
水の処女歌集『海の声』に収められています。

和泉葛城山を越えて泉州から粉河に向かう途中、
牧水は、五本松峠で見た紀の国の山々に心洗われた
のではないでしょうか。

『よさこいハイランド!』は、よさこい集団風猛
乱舞の皆さんの意見を聞いて、総踊り曲にふさわし
い軽快さと分かりやすさを心がけてつくりました。

ハイランドパーク粉河の展望台からは、和歌山側
は牧水も見た紀の国の山々、大阪側は関西国際空港
の島や遠く六甲山まで見ることができます。

山の上の澄んだ空気の中、老若男女が輪になって
踊るよさこいの歌として、この歌に親しんでもらえ
れば幸いです。

この歌には、この地域で昔から歌い継がれてきて
いる『かちんぼ節』も、歌の一節に取り入れること
にしました。

「かちんぼ」とは、今のような軽トラックやモノ
ラックが発達する以前、みかんを収穫した後、人力
でみかんを運ぶために使われた肩にかける棒のこと
です。一度に六〇キログラムほどのみかんを、かち
んぼで運ばなければならなかったため、大変な重労働
だったそうです。その苦しさを紛らわせるために
歌われたのが、『かちんぼ節』だったというわけです。
『かちんぼ節』の歌詞を一部紹介します。

嫌じゃ嫌じゃと 鳴くかこの鳥ヨ

かごも破れる こともあるヨ

ミカン取りさん トンボかせミカヨ

朝の早よから 木に止まるヨ

ミカン船なら 急いでおいでヨ
江戸で売り子が 待っているヨ

・インタビュー・



鎌垣財産区議長 **堀内宏員**^{ひろかず}さん

一ハイランドパーク粉河の活性化に向けてー

ハイランドパーク粉河は、平成5年の開設以来、大阪と和歌山の境の森林公園として多くの観光客を集めてきました。展望台からは、関西国際空港が一望できます。

毎年、秋にハイランドパーク粉河のお祭りを行いますが、平成21年から「よさこい」集団を招き、よさこい踊りで祭を盛り上げてもらっています。老若男女が集える勇壮なリズムの踊りは、本当にいいですね。田中さんにつくってもらった『よさこいハイランド!』で、祭が一層活気づくと期待しています。

私もみかん農家で、昔は「かちんぼ」をかついでみかんを運んだものです。そういった昔ながらの伝統を、この歌に織り込んでもらえたのも嬉しい限りです。

『よさこいハイランド!』で祭が一層活気づくと期待しています。

この地域で、現役の頃『かちんぼ節』を歌っていた農家の方はすでに九〇歳をこえていて音源探しに苦労しました。結局、紀州民謡研究会の山本唯雄さんを通じて、『かちんぼ節』の音源を分けていただくことができました。その音源をアレンジし直して、『よさこいハイランド!』に取り入れさせていただきました。

この地域に伝わる『かちんぼ節』の素晴らしさを、『よさこいハイランド!』を通じて感じとってもらえれば幸いです。

なお、東京で行ったこの歌のレコーディングでは、宮本静さんにご参加いただきました。CDを聴いていただいた方には、宮本さんが楽しくのびやかに歌っている雰囲気を感じてもらえるのではないのでしょうか。

帰ってきてくれたんか

作詞作曲／田中卓二

1
うちのとこ帰ってきてくれたんか
ほんまにうち嬉しいで
分かっとる 女はいつも損ばかりや
心も体も傷ついて
どんなに悔やんでも悔やみきれん
過ち 心に刻んだまま
※寂しかったんやね 辛かったんやね
もっと側においでや 寒いやろう
みんなあんたのこと 心配してたんやで
みんなあんたが 好きなんや※

2
どんなに一生懸命に生きても
報われんことばかりや
分かっとる 手当てなんてできんこと
泣きたいだけ泣けばええ
誰でも口では言えんような
哀しい話を もっとるもんや
寂しかったんやね 辛かったんやね
何も言わんでええから そこにいて
季節は巡ってゆく 街は変わってゆく
やけど あんたはそのまや

3
誰でも口では言えんような哀しい話を
もっとるもんや
※繰り返し
みんなあんたが好きなんや

(七) 帰ってきてくれたんか

私のふるさとは、大阪の千里ニュータウンです。
高校卒業と同時に大阪を離れて、もう四半世紀に
もなります。近くの商店街がマンションになってし
まったのを除けば、街並み自体はあまり変わりあり

ません。ただ、近所で子ども達の歓声は聞こえな
くなり、老人達の街になってしまった感があります。
兄と私そして妹の三人兄妹がいたころは手狭だっ
た我が家も、三人とも結婚して独立し、両親二人だ
けでは少し広すぎる感じがしなくてもありません。

私にとつての大阪は、必ずしもいい思い出ばかりあるわけではありません。いじめ、親友の裏切り、友人の自殺など、今から思い返しても、苦い唾がこみあがるような苦しい思いも経験しました。当然、失恋もありました。

ただ、その後、就職して大阪を離れ、根無し草のように全国を転々とする中で、大阪のもつ「あたたかさ」を感じることが多くありました。理屈では説明できないふところの深さが、大阪にはあると思います。たとえば、同じ慰めの言葉でも大阪弁で言われるだけでも癒されます。

『帰ってきてくれたんか』は、大阪弁の癒しの世界を伝えたくてつくった歌です。どんなに辛いときでも苦しいときでも、大阪弁で慰められると癒されることが本当にあると思います。



一生懸命生きてても報われないことが多いですが、それでも一生懸命生きていかなければいけないのだと思います。

この歌は、ふるさとの大阪と同じように、私にとつて大切な歌です。

(八) 歌とともに

紀の川市に赴任してから、次の五曲をつくったことになりました。

○『紀の川のほとりで』（平成二〇年）

○『紀の川ぶるぶる娘の歌』（平成二二年）

○『童男さんの歌』（平成二二年）

○『あんたの済州島へ』（平成二二年）

○『よさこいハイランド！』（平成二二年）

五曲とも、音楽制作のプロ集団・ASORA社にアレンジをしていただき、大変素晴らしい楽曲に仕上げていただきました。『紀の川のほとりで』の中に鳥の鳴き声や川のせせらぎの音を入れてほしいなど色々和无理な注文をしましたが、すべて快く受け入れてくれて、大変クオリティの高いものになっています。

『紀の川のほとりで』と『紀の川ぶるぶる娘の歌』

については、上名手小学校と西貴志保育所の子ども達に歌ってもらい、CD化することができました。

『童男さんの歌』は、紀州わらべ歌粉河教室の皆さんと一緒に粉河とうろう祭で歌わせていただきました。子ども達が、これらの歌に「魂」を吹き込んでくれたものと感謝しています。

また、市内の保育所では、『紀の川ぶるぶる娘の歌』を使って体操などをしているそうで、歌による食育推進とあわせて健康づくりにも役立つ、一石二鳥の取組となっています。中貴志コミュニティセンターの夏祭りの盆踊り曲にも『紀の川ぶるぶる娘の歌』を活用いただいているそうです。

紀の川市のまちづくりの様々な場面で、私がつくった歌を使っていたくのは、大変光栄なことです。ASORA社のコーディングディレクターに、「田中さんの歌は、すぐにヒットチャートをにぎわすわけではないけれど、地域に残っていく歌だから

いいですね」と言われたことがあります。

これらの歌が、紀の川市の人々に歌い継がれていくようになれば、これ以上の喜びはありません。

◆「地域」で育まれてきた「音」

紀の川市に来てから、「地域」で育まれてきた「音」を私の歌づくりにとりいれるようになりました。

『童男さんの歌』のバックに流れている太鼓は、粉河まつりで叩かれる『粉河祭だんじり太鼓』です。また、『よさこいハイランド!』で挿入歌としていた『かちんぼ節』は、紀北地方に伝わる民謡です。地域に伝わる民謡には、その地域の人々の体臭、彩り、想いなどが染み付いているような気がします。例えば、紀の川市のお隣の岩出市につたわる『根来の子守唄』には、秀吉の紀州攻めで全山焼き討ちにあった新義真言宗総本山・根来寺の歴史の悲哀が、そのメロディーと歌詞に詰まっていると思います。

私が尊敬する作詞家・作家のなかにし礼さんも、『不滅の歌謡曲』（日本放送出版協会）の中で次のように述べています。

「各都道府県、各市町村がもし本格的に歌の発掘に努めたならば、民謡の名作を探し当てただけでなく、それこそ日本人の失われた心を掘り起こす作業にもなるのではないかと思うのです。またフリーエーターたちも、たとえばオペラのような新作をつくる場合は、その土地の醸し出す音というものをと重視すべきだと思います。」

古い歌を探し出すという作業は、決して回顧趣味に走ることはありません。それは、土地と歌との関係の新たな発見であり、埋もれてしまった名曲の価値を新たに拾い上げるという積極的な意味があるのです」

紀の川市でも、民謡や盆踊り歌、わらべ歌などが地域のコミュニティが失われていくとともに伝承されなくなってきました。私たちの地域に伝わる歌を発掘し、伝えていく不断の努力が必要です。

私自身も、今後、「地域」で育まれてきた「音」を大切にしながら、「地域」をテーマにした歌づくりを継続していきたいと考えています。

◆映画『生きる』と『ゴンドラの唄』

「いのち短し 恋せよ乙女

紅き唇 あせぬ間に

熱き血潮の 冷えぬ間に

明日の月日は ないものを」

（作詞・吉井勇、作曲・中山晋平）

映画『生きる』のラストシーンで、主人公の渡辺

が公園のブランコで歌っていた『ゴンドラの唄』の一節です。雪の降る中、この歌を歌いながら死んでいった渡辺は、市役所の市民課長でした。死の病を宣告されてから五カ月、役所の縦割り行政の中で放置されていた公園建設に、人が変わったように奔走します。名前が残るわけではないけれども「生きた」という証を得られた渡辺は、幸せな死を迎えたのではないのでしょうか。

黒澤明監督の映画『生きる』を私が見たのは、公務員研修で作家・童門冬二さんが「公僕のあり方・主権在民を示すもの」として推奨していたからです。昭和二十七年につくられた映画なのですが、現代にも十分通じる面白さと人間ドラマの深さを示しています。

この映画で重要な役割を担っているのが『ゴンドラの唄』です。大正四年に松井須磨子が歌ってヒット曲となりました。最近では、森繁久弥が歌ってい

ます。

女性への熱い問いかけを歌ったこの歌が、なぜ『 Gondra の唄』という題名なのでしょう。実は、この歌はアンデルセン原作で森鷗外が訳した『即興詩人』という作品から着想を得て書かれた歌です。主人公の少年アントニオがヴェネチアで Gondra に乗ったとき、この歌と同じ文句の俚謡（民謡）を耳にします。この俚謡を作詞家の吉井勇が大正時代のラブソングとして昇華させたものが『Gondra の唄』なのです。

私は、映画『生きる』を見て、正直他人事と思えませんでした。

公務員を長くやっていると、どうしても自分の所属する部局・組織に仕事の範囲を限定してしまいがちになります。国にいた頃、国会答弁を隣の課とどちらが受けるかで延々と数時間議論したこともあり

ます。

しかし、公僕たるもの、まず根本として市民・国民のために何をするべきなのかを考えなければなりません。縦割り行政の弊害を避けるため自分が何をするべきなのか、この映画を見ることで強く意識させられました。

映画『生きる』は、国・県・市町村を問わず公的機関に籍を置く人達に見ていただきたい映画です。

また、『Gondra の唄』は、私たちに与えられた「人生の時間」が決して無制限にあるわけではないことを教えてくれます。私たちの心を揺さぶる歌詞とメロデーは、映画『生きる』とともに後世に伝えていかなければならない「宝物」だと思います。

私は『生きる』の主人公の渡辺が、価値ある人生の目標を見出すことができたのは『Gondra の唄』の力だったと思います。私自身も、『Gondra の唄』を聴くたび、この歌に自分が生かされているような

気がしてなりません。

「歌」は、世代を越えて人の人生に影響を与える大きな「力」を持っているものだと思います。

◆むすびに

この本に添付するCDには、以下の六曲を入れています。

- ① 『紀の川のほとり』(田中卓二)
 - ② 『紀の川ぶるぶる娘の歌』(結まある、田中卓二)
 - ③ 『童男さんの歌』(田中卓二)
 - ④ 『大阪を離れて』(田中卓二)
 - ⑤ 『よさこいハイランドー!』(田中卓二、宮本静)
 - ⑥ 『帰ってきてくれたんか』(田中卓二)
- 四番目の『大阪を離れて』は、『あんたの済州島へ』の原曲です。

子ども達の歌や宮本静さんの歌については、それぞれのCDをご購入いただくと幸いです。

紀の川市では、たくさんの人々の応援をいただき、多くの歌を残すことができました。応援をいただいた一人ひとりの皆さんに改めてお礼を申し上げます。